

読売俳壇

高野ムツ才選

夏草の勢ひが歩道へと及ぶ

香川県 福家 市子

【評】路肩から草が這い出し、敷石の間から雑草が噴き出す。よく目にする光景だ。不快になりながらも野生の逞しさに思わず感心する。「勢ひ」が「及ぶ」との表現が的確。うがひする音面隣朝曇

市川市 をがはまなぶ

【評】家族同士も良いが、入院中の患者同士。うがいの音が互いの病い克服を励まし合っているかのようだ。外は本格的な暑さに向かう。父の曰や爪に残れる煙の土

江別市 北沢多喜雄

【評】梅雨晴れ間の畑仕事。終えて手を洗っているときだろう。なかなか取れない爪の土に父の手を思い出したのだ。折しも父の日だった。柿の花落ちて初めて空見上げ

日高市 大高ひろみ

曳山のやうななじり切り蝸牛

日立市 菊池三三夫

蝶の舌花芯へ伸びて我鬼忌かな

川崎市 久保田秀司

紫陽花や成層圏より上は闇

高槻市 村松 譲

鈴貫ひ跳人となりぬ旅の夜

香芝市 山本 合一

十葉に囲まれ観世音菩薩

川口市 清正 風葉

過疎村の守人のごと牛蛙

小山市 松本 喜雄

正木ゆう子選

真夏日と聞いて安堵の日本かな

国分寺市 野々村澄夫

【評】真夏日とは最高気温が30度以上になる日。最高気温が25度以上の夏日よりは暑い、35度以上の猛暑日よりはずっとまし。暑さの基準がだんだん変わってきた私たち。むき出しの地球を掴む夏の山

名古屋 越村 和行

【評】ごつごつした岩を掴み登っているのだろうか。土も草も苔も纏わず、むき出しの地球。人も、むき出しの命ひとつで岩と接し合う。当番の変わり麦茶の今日の味

神栖市 桐本 博昭

【評】煮出すお茶は、自分で同じ作り方をしているさえ、毎日味が違う。人が変わればもっと違うだろう。茶葉を入れるタイミング。煮出す時間。瓜坊と子鹿漂着夏出水

津市 中山 道春

一番に梔子の花殻を摘む

東京都 松永 京子

夫の声しない日常冷奴

所沢市 安田美津江

舟を寄せ縁より上る夏座敷

名古屋 可知 豊親

爪少し伸び玉葱の皮を剥く

埼玉 吉野利美子

それらしく流水を置く作り滝

宝塚市 広田 祝世

夏至の日や野良の仕事に時忘れ

岡崎市 加藤 幸男